

4 農山漁村振興 -元気で豊かな農山漁村づくり-

(1) 農山漁村の賑わい創出と地域コミュニティ機能の維持

プロジェクト

あおり型農村RMOの実現

目標

- ・ あおり型農村RMO数 R4：0組織 → R10：12組織
- ・ 農林漁家民宿延べ宿泊者数 R4：7,732人泊 → R10：10,800人泊

挑戦する内容

- ・ **農村地域のコミュニティ維持に意欲のある市町村への支援**
- ・ 農村RMOの実現に向けた集落の育成
- ・ 関係人口の創出等による農泊の推進

関係者の声
= 対話

- ・ 農山漁村の維持に向けた取組は必要だと思うが、役場のマンパワー不足と地域の担い手（人材）不足により、なかなか動き出せない（市町村）
- ・ 地域貢献的な取組を行うには、自身の経営を安定させることが必要（地域経営体）
- ・ 農泊実践者の高齢化。現状のままでは農泊受入人数の大幅な拡大は難しい（農泊受入団体）

役割分担

- ・ 地域経営体：地域との連携、雇用と収益の創出など地域の経済活動、農用地保全等
- ・ 農泊実践者：実践者同士の連携、交流人口の拡大・関係人口の創出を目指した取組の実施
- ・ 農泊受入団体：多様な受入方法の確立、受入態勢の強化
- ・ 市町村：地域の強みや課題を地域住民と共有し、強みを伸ばし、課題解決策の実践町内会や社会福祉協議会など農業以外の分野との連携の仲立ち
- ・ 県：学識経験者などを交えた伴走支援

変革後の姿

- ・ 地域住民自らが話し合うむらづくり協議会が設置され、農山漁村の維持に向けた取組が活発化
- ・ 農泊の取組拡大により、関係人口が創出され、地域経済が活性化

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 農村地域のコミュニティ維持に意欲のある市町村への支援
 - ・ 農村RMOの推進等マネジメント活動への支援
- 2 農村RMOの実現に向けた集落の育成
 - ・ モデル集落の活動母体組織や経営体の取組支援
 - ・ 中間支援組織や有識者を活用した総合サポート
- 3 関係人口の創出等による農泊の推進
 - ・ 農泊に取り組む個人や地域の確保・育成
 - ・ 教育旅行等の受入態勢の整備
 - ・ 国内外のプロモーション等の実施

モデル集落の取組
(野菜づくり体験会)修学旅行関係者による
受入農家視察

対話

- ・ 部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・ 市町村のマネジメント部会への参加やモデル集落の取組支援の中で、出された意見を参考に事業構築に反映（通年）
- ・ 農村RMOの伴走支援担当者合同ミーティングを開催し、モデル集落の進捗状況やそれぞれの課題についての意見交換の場を設定（5月、9月、3月）
- ・ 農泊受入団体やアジアからの観光客誘致推進協議会を通じ、関係団体などの意見を聞き取り、事業構築に反映（通年）